

食物アレルギー対応指導事例 I

1 目的 食物アレルギーの正しい理解を図る。

2 日時 年度初めの学校給食が始まる前の 1 単位時間
（食に関する指導の年間指導計画「給食の約束①」）

3 教育課程 学級活動（学習指導要領 特別活動 2 の 2 の（2））

4 内容

（1）教職員が指導をするに当たっての共通認識

①事故を風化させない思いをもつ。

平成 24 年 12 月 20 日調布市立小学校にて、食物アレルギーのある児童が、給食の時間に食べたものが原因とみられるアナフィラキシーショックによる死亡事故が発生した。同じ悲劇を二度とおこしてはならない。

②「食物アレルギーとは」・・・ガイドラインを活用し、食物アレルギーの知識をもつ。

③絵本・紙芝居等参考資料を活用

（2）【展開例】

学級の中に（食物アレルギー）のある友達がいる場合、その友達の様子について共通理解を図る。（いない場合はアレルギーの理解）

・「アレルギー」とはどんなものか。

・「食物アレルギー」とは

①好き嫌いとアレルギーの違いを理解する、気を付けなければ命を失いかねない等、食物アレルギーについて知る。

②該当の児童・生徒のアレルギーの状況について理解する。

③みんなのできることを考える。

④教師がみんなで気を付けていくことをまとめる。（ルールの確認）

（例）ア 食物アレルギー対応献立表を活用し、アレルギーのある子供がどのような対応なのか、学校栄養士が印をつけたものを各学級同じ場所に掲示し、教員、本人、友達が確認できるようにする。

イ 配食の約束 トレーや食器で区別

ウ おかわりの約束

エ 給食当番の約束

オ 友達の具合が悪くなった時すぐに先生に伝える

（※事故防止検討部会、緊急対応検討部会で内容を検討中）